



水道橋畔発

第34号 令和3年12月

「水道橋病院副院長・水道橋病院医療安全管理委員会、
感染予防対策委員会 委員長より」

Content

当院の医療安全と感染予防への対応

水道橋病院副院長・水道橋病院医療安全管理委員会、感染予防対策委員会 委員長
高野 正行

老年歯科補綴学講座

クラウンブリッジ補綴学講座

パーシャルデンチャー補綴学講座

「コラム」 口腔機能の正常な発達と維持はいまや歯科の役目です

1p
2p
3p
4p
6p



「水道橋病院副院長・水道橋病院医療安全管理委員会、
感染予防対策委員会 委員長より」

当院の医療安全と感染予防への対応

水道橋病院副院長・水道橋病院医療安全管理委員会、感染予防対策委員会 委員長
高野 正行

医療事故はメディアでも大きく報道されることがありますが、現代の医療において医療安全管理は、確実な治療結果や先進的な治療技術と同様に、ときにはそれ以上に重要とされるものです。そのため、各病院には医療法により、安全管理指針の作成、安全管理委員会の設置、安全管理研修の実施、事故などの院内報告制度などが求められています。また感染予防対策も医療安全管理の一つですが、安全な医療の基本として独立した項目とされていることが多いのです。ここでは、水道橋病院での医療安全管理、感染予防対策への取り組みについてその一端をご紹介します。

水道橋病院では医療安全管理の実行部門としてリスクマネジメント委員会が組織されており、各部署からの選ばれたリスクマネージャーたちが日々医療安全に対しての仕事をしています。その業務の1つは医療事故やそれに類似するインシデントが起きたときに適切に対応することです。例えば治療中に修復物の誤嚥が起きた時、担当医は速やかにリスクマネージャーに連絡します。リスクマネージャーは初期対応から各所への連絡、救急対応などを行いその日のうちに報告書を提出するよう促します。集まった報告書は医療安全管理室での検討作業を経て月に1回のリスクマネジメント部会でその詳細が報告され再発予防策が検討されます。これはとても時間がかかり大変な作業ですが、事故の予防や安全対策の拡充に繋がっています。ただし、これら一連の作業の目的は再発の予防であり個人の責任追及ではありません。

一方、感染予防対策では、2020年初めからのコロナ禍への対応が喫緊の課題となりました。新型コロナウイルス感染症が拡大し、最初の緊急事態宣言が発令された同年2月から患者制限を行うとともに、病院入口にゲートを設け問診票と体温測定を行いました。新型感染症が院内で蔓延するとすべての診察がストップしてしまいますので、感染予防対策チーム(ICT)の委員たちは緊張感を持って対応に当たりました。連携医の皆様にも多大なご協力をいただき、その成果として院内で新型コロナ感染が広がった事例はありません。ICT委員は平時から毎週に院内ラウンドを行い、マスクやフェイスシールドなどの个人防护具(PPE)の装着状況などの実施状況等をチェックしています。その結果は毎月のICT委員会で報告検討され、より確実な感染予防策へとつながっています。



緊急事態宣言下の病院入口での検温と質問表の記入

医療安全の保持は地道な作業の積み重ねですが、委員たちは医療事故や院内感染を未然に防ぐとともに、死亡や高度障害に至るような重大事故が決して起きることもないように努力しています。



補綴科の紹介

平素より補綴科宛に患者さまをご紹介下さり、誠にありがとうございます。
東京歯科大学水道橋病院補綴科は、老年歯科補綴学講座、クラウンブリッジ補綴学講座、パーシャルデンチャー補綴学講座の3講座で構成され、およそ60名の歯科医師が所属しております。ご紹介いただきました患者さまは、原則5年目以上の歯科医師が担当いたします。患者さまを紹介いただく際には、紹介先を当院補綴科宛にさせていただきますようお願いいたします。治療に際し、症例の難易度によりましては治療の進行にお時間をいただく場合もございます。また、補綴治療の前に、う蝕治療や歯周病治療、歯科矯正治療や抜歯術などの前処置が必要な場合は、保存科、口腔外科、口腔インプラント科、矯正歯科、歯科麻酔科などと連携を図り、治療を行うこともあります。そのため、治療終了までにお時間をいただく場合もございます。ご紹介の前には患者さまにもお伝えいただけると幸いです。



クラウンブリッジ補綴学講座

【所属歯科医師】

当講座の歯科医師は、日本補綴歯科学会を始め、日本歯科審美学会、日本接着歯学会、日本口腔インプラント学会といった各専門学会に所属しており、日々の治療に尽力しております。

【治療の特徴と流れ】

当講座では、健全歯質の切削量を必要最低限とし、昨今の向上した接着技術を応用する接着ブリッジや、金属アレルギーの疑われる患者様につきましては内科との連携で検査を行い、生体親和性に優れたセラミックを用いたメタルフリー治療を提供させていただいております。その他、デジタルデンティストリー領域において

は、口腔内スキャナーやラボスキャナーを導入し、光学印象および院内技工室で常勤の歯科技工士と密に連携を図り、CAD/CAMで製作した補綴装置による治療を積極的に行っております。

治療の流れとしては、初診時に担当医の医療面接と診断に必要な資料の採得をさせていただき、必要に応じて咬合検査や機能検査、咬合器上での模型診断、セファロ分析を含めたエックス線画像検査を行い、診査・検査の結果を踏まえた診断の基、治療を進めさせていただいております。また、定期的に症例検討会を開いて診断・治療方針について情報共有を行い日々の診療に反映するように講座員一同研鑽しております。

デジタル印象採得



CAD



CAM



加工





【所属歯科医師】

当講座の歯科医師は、日本補綴歯科学会を始め、日本老年歯科医学会、日本口腔インプラント学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会といった各専門学会に所属しております。日本補綴歯科学会の指導医 2 名、専門医 1 名、認定医 2 名、また日本老年歯科医学会の指導医 2 名、認定医 6 名が在籍しており、定期的に講座内での症例検討会や勉強会を実施して研鑽を積んでおります。

【治療の特徴と流れ】

当講座は「食べる機能を治し支える」というコンセプトを掲げ、欠損部へ補綴装置を製作するだけでなく、患者さまの口腔機能を評価して管理し、各患者さまの状況に応じた総合的なサポートを実践しております。患者さまの中には、自覚症状がないものの口腔機能が低下している方も多くいることが明らか



(図1)グミゼリーを用いた咀嚼能力検査に用いる装置

になっています。当講座の治療においては、初診時に担当医との医療面接や欠損部の診断に必要な資料の採得を行うのに加えて、口腔衛生状態、口腔乾燥、咀嚼機能、咬合力、舌口唇運動機能、舌圧、嚥下機能といった口腔機能の検査を行い(図1、2)、それらの結果をふまえた総合的な診断を基に、患者さまに最適と考えられる治療計画を立案させていただいております。中でも咀嚼機能に関しては、患者さまの主観的な評価に加え、グミゼリーを用いた咀嚼能力検査などの客観的な検査(図1)を行って、治療による機能の変化を数値化して評価しております。

義歯治療に関しましては、レジン床義歯や金属床義歯に加え、ジルコニア床義歯(図3)、BPS

老年歯科補綴学講座



(図2)舌圧の計測に用いる装置

(Ivoclar Vivadent 社認定 Biofunctional Prosthetic System, 生体機能的補綴システム) 義歯やコンフォート(シリコーン系軟質リライン) 義歯(図4)といった様々な選択肢に対応し、超高齢社会における多様化する患者さまのニーズにお応えできるように努めております。さらに近年発展の著しいデジタルデンティストリーにも対応し、デジタルデンチャーの臨床応用も行っております。



(図3)ジルコニア床義歯



(図4)高度顎堤吸収症例に応用したコンフォート義歯



パーシャルデンチャー補綴学講座

【所属歯科医師】

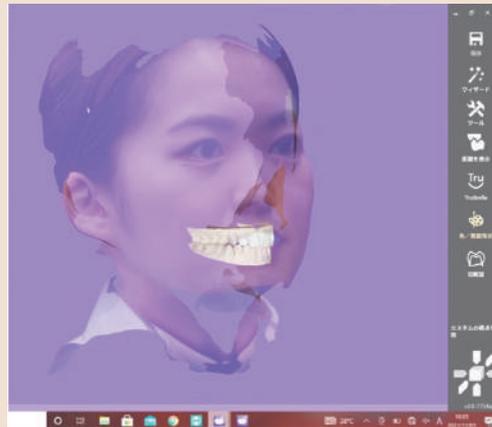
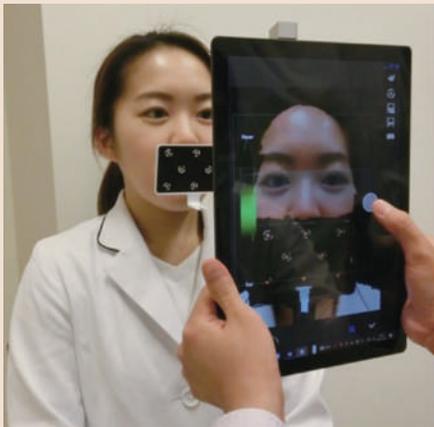
当講座の歯科医師は、日本補綴歯科学会を始め、日本口腔インプラント学会、日本顎関節学会、日本老年歯科医学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会といった各専門学会に所属しており、診療を行っております。定期的に講座内での症例検討会や他科との合同症例検討会、各専門分野の非常勤講師を招いての勉強会を実施し、研鑽を積んでおります。

【治療の特徴と流れ】

当講座は、歯列の欠損部を診るだけでなく、残存歯や顎堤の評価はもちろん、研究用模型用いた咬合の評価、口腔関連QOLの評価、咬合力検査や咀嚼機能検査などの顎口腔機能検査や身体社会的条件などを踏まえ、総合的に患者さまの口腔の状態を検査・評価することが、補綴治療において重要と考えております。検査の過程で、必要に応じて、自由診療と

なりますが、側面頭部エックス線写真やCT撮影を行います。各種検査結果をもとに、治療計画を立案いたします。計画立案においては、現在の口腔の状況に至った経緯を考え、将来的な口腔内の変化を考慮した治療になるよう心がけております。治療方針を詳細に説明し、患者さまの同意のもと、治療を開始いたします。パーシャルデンチャーは健康保険内のレジン床義歯を始め、金属床義歯、コーヌストレスコープクラウンや各種アタッチメントを用いた義歯にいたるまで、欠損に合わせてさまざまな義歯が考えられます。患者さまと相談しながら、よりよい治療が提供できるよう努めております。

さらに、近年では口腔内スキャナーや顔面スキャナーを用いた補綴治療の研究および臨床応用を行い、デジタルデンティストリーの取り組みを開始しております。



顔面スキャナーを用いた顔面情報の記録と、歯列模型のマッチング画像。
(医局員によるデモ画像)

補綴科の COVID-19 への対応

補綴科では、タービンやコントラ、ストレートハンドピースを頻繁に使用いたします。診療ユニットおよび診療器具の消毒・滅菌、診療時に、術者および介助者はビニールガウン、キャップ、フェイスシールドを装着し、回転切削器具や超音波スケーラー等の飛散を伴う場合には口腔外バキュームによる吸引下で作業することで感染予防に努めております。

令和3年11月1日現在

病院長	片倉 朗		
副病院長	山下 秀一郎	副病院長	古澤 成博
副病院長	鳥山 佳則	副病院長	高野 正行

東京歯科大学水道橋病院
診療科担当医ご案内(レギュラースタッフ)

診療科名	職名	氏名	講座名
保存科	部長・教授	古澤 成博	歯内療法学
	客員准教授	河野 雅之	
	医局長・講師	山田 雅司	
	助教	佐古 亮	
	教授	田宮 資己	歯周病学
	教授	齋藤 淳	
	講師	勢島 典	
		今村 健太郎	
	助教	喜田 大智	
	助教	青木 栄人	
	教授	吉川 幸輝	保存修復学
	教授	村松 敬	
	准教授	杉戸 博記	
	講師	春山 亜貴子	
	半場 秀典		
助教	中村 圭喜		
	三友 啓介		
	明橋 啓子		
	石塚 久子		
	上田 貴之		
補綴科	教授	竜 正大	老年歯科補綴学
	准教授	高野 智史	
	講師	中島 純子	
	助教	太田 緑	
		堀部 耕広	クラウンブリッジ補綴学
		齋藤 壮	
		石田 晃裕	
		関根 秀志	
	教授	佐藤 亨	クラウンブリッジ補綴学
	准教授	野本 俊太郎	
	講師	四ツ谷 護	
	助教	酒井 貴徳	
		露木 悠	パーシャルデンチャー補綴学
		川崎 貴裕	
	黒田 祥太		
	山下 秀一郎		
口腔外科	部長・教授	田坂 彰規	パーシャルデンチャー補綴学
	医局長・准教授	堀田 宏巳	
	客員准教授	大平 真理子	
	助教	田中 章啓	
		池田 一洋	口腔顎顔面外科学
		上窪 祐基	
		加藤 芳美	
		鎌田 聡仁	
	教授	高野 正行	口腔顎顔面外科学
	客員教授	柴原 孝彦	
	医局長・准教授	渡邊 章	
	講師	吉田 秀児	
		大野 啓介	口腔顎顔面外科学
	助教	加藤 宏	
	小郷 直之		
	有泉 高晴		
口腔病態外科学	部長・教授	片倉 朗	口腔病態外科学
	准教授	笠原 清弘	
		(菅原 圭亮)	
	助教	西山 明宏	
		星野 照秀	
		小山 侑	
歯科麻酔学	部長・教授	小谷地 雅秀	歯科麻酔学
	医局長・准教授	一戸 達也	
	部長代理・講師	小鹿 恭太郎	
	助教	半田 俊之	
矯正歯科学	助教	吉田 香織	歯科矯正学
		寺島 玲子	
	部長・教授	西井 康	
	客員教授	末石 研二	
	医局長・准教授	石井 武展	歯科矯正学
	講師	宮崎 晴代	
		立木 千恵	
	助教	片田 英憲	
	海老澤 朋宏	歯科矯正学	
	内山 沙姫		
	安村 敏彦	歯科矯正学	

診療科名	職名	氏名	講座名
小児歯科	部長・教授	新谷 誠康	小児歯科学
	講師	辻野 啓一郎	
	医局長・講師	櫻井 敦朗	
	講師	本間 宏実	
口腔インプラント科	部長・准教授	佐々木 穂高	口腔インプラント学
	助教	平野 友基	
		小田 由香里	
		野本 冬歌	
スペシャルニーズ歯科・ペインクリニック科	科長・教授	福田 謙一	口腔健康科学
	教授	大多和 由美	
	医局長・助教	半沢 篤	
	助教	野口 智康	
健康スポーツ歯科	科長・教授	武田 友孝	口腔健康科学
	医局長・准教授	中島 一憲	
摂食嚥下リハビリテーション科	科長代行	片倉 朗	口腔健康科学
	教授	石田 瞭	
	准教授	大久保 真衣	
	医局長・助教	半沢 篤	
放射線科	部長・教授	後藤 多津子	歯科放射線学
	客員教授	岡野 友宏	
	准教授	和光 衛	
	医局長・講師	音成 実佳	
	講師	小高 研人	
	助教	佐藤 仁美	
臨床検査科	部長・教授	松坂 賢一	病理学
	教授	橋本 貞充	
	講師	國分 克寿	
	助教	中島 啓	
内科	科長・准教授	山岸 由幸	
	准教授	仁科 牧子	
眼科	科長・教授	ビッセン 弘子	
	医局長・講師	太田 友香	

()長期出張中

水道橋病院 診療案内

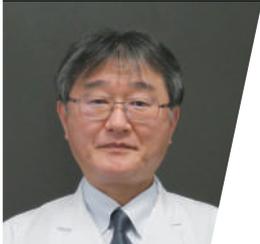
初診受付	平日・土曜とも8:50~11:00
お問い合わせ時間	平日8:45~17:30 土曜8:45~13:00
休診日	第2土曜・日曜・祝日・ 本学創立記念日(2月12日)・年末年始

【各診療科等ダイヤルインについて】

※患者さまには各科の直通電話番号をお知らせさせていただきますようお願いいたします。

5階	内科	03-5275-1926
4階	口腔外科	03-5275-1725
	歯科麻酔科	03-5275-1851
	放射線科	03-5275-1953
3階	補綴科	03-3262-3425・3426
	口腔インプラント科	03-5275-1760
	小児歯科	03-5275-1723
	矯正歯科	03-5275-1724
2階	スペシャルニーズ歯科・ペインクリニック科	03-5275-1795
	摂食嚥下リハビリテーション科	03-5275-1732
	眼科	03-5275-1856
1階	保存科	03-5275-1721・1722
	健康スポーツ歯科	03-5275-1721・1722
1階	医事課	03-5275-1932
	地域医療連携室	03-5275-1732

()長期出張中



「コラム」

口腔機能の正常な発達と維持は いまや歯科の役目です



【小児の口腔機能発達不全症】 (小児歯科 新谷教授)

小児期には口腔の形態的な発育変化だけでなく、機能の発達、獲得が行われています。機能の発達に問題があると「食べる」「話す」などの問題にとどまらず形態的にも問題のある成長をしてしまうこととなります。このような成長の過程での機能の獲得に問題があることを「口腔機能発達不全症」と呼びます。2018年には「小児口腔機能管理加算」が保険収載され、口腔機能の発達に関する管理が評価されるようになりました。現在は独立し「小児口腔機能管理料」月1回算定できます。

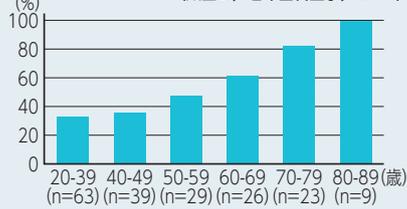
水道橋病院小児歯科では主に混合歯列期初期の乳児型嚙下の残存による舌の突出や口唇の閉鎖不全について、専門知識を持つ歯科衛生士による口腔筋機能訓練を行っています。口唇閉鎖力の検査には図の口唇閉鎖力測定器(りっぶるくん®)を用います。この検査は小児口唇閉鎖力検査として保険算定できます(3月に1回:100点)。



【口腔機能低下症】 (補綴科 上田教授)

口腔衛生状態不良、口腔乾燥、咬合力低下、舌口唇運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下、嚙下機能低下の7項目の検査を行い、3項目以上が該当するものを「口腔機能低下症」と診断します。下図は、我々が調査した口腔機能低下症の罹患率です。60歳代で6割、70歳代で8割程度になります。本調査の対象者は、大学病院を受診されるような特別な患者さんではなく、歯周病の管理や齶蝕予防のためのリコールや義歯のメンテナンスのために地域の歯科医院を受診された、ごく一般の患者さんです。外来の患者さん

【図】都内の歯科医院受診患者の口腔機能低下症の罹患率(太田ら, 老年歯科医学, 2018)



の中には、歯周病や義歯の患者さんの割合と同程度に、実は高確率で口腔機能低下症の患者さんがいることを知っていただきたいと思います。

実感より高率に思われるかもしれませんが、口腔機能低下症は、咀嚼障害、嚙下障害、発音障害といった障害レベルの一手手前の段階です。ですので、歯科医師だけでなく、患者さん自身もまだ深刻には感じていない程度のささいな機能低下しかないと気が付きにくいのです。しかし、この段階で放置してしまうと、いずれ障害レベルに陥ってしまいます。したがって、この段階で検査により機能低下を発見していただき、早期に管理をしていただきたいと思います。もちろん、当院に検査や管理をご依頼いただくことも可能です。



東京歯科大学 水道橋病院

住所	〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-9-18
電話番号	03-3262-3421 (代表)
ホームページ	http://www.tdc.ac.jp/sh/



東京歯科大学水道橋病院

編集後記

早いもので、2021年も残りあとわずかになりました。今年は東京オリンピックの開催など様々なことがありましたが、総じて新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。当病院では様々な感染対策を講じながら、安全な医療を提供するために試行錯誤を重ねてきました。また、新型コロナワクチン接種では本学が千代田区の教職員の職域接種会場となり、職員・スタッフが一丸となってワクチン接種も行いました。年末になりようやく感染者数が落ち着いてきましたが、このまま第6波が来ることなく、来年は平穏な日常が戻ることを願うばかりです。来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。(小鹿 恭太郎 記)

▶▶▶ 次回、第35号では

スペシャルニーズ歯科・ペインクリニック科、健康スポーツ歯科、摂食嚙下リハビリテーション科について詳しくご紹介します。